

## 独立後わずか2年で業務を軌道に乗せた写真家・田村拓也氏の展開

本紙では業界企業関係から様々な形で独立した人々の姿を記事にしてきた。今回はキヤノンMJを定年退職後にプロカメラマンとして独立し、軌道に乗せている田村拓也氏（63歳）の展開を取り上げる。

**EOS学園担** 1983年にキヤノン販売(当時)に入社。

**当が転機に** コンシューマ部門に所属し主に家電量販店への営業や本部担当を務めた。その後、社内人材の育成担当などのポジションを経てEOS学園東京校の責任者に着任した。「実はこの地位への着任が大きな転換点になりました」と同氏。それまでフィルムカメラ時代からあくまで趣味として関わってきた



撮影に仕事として関わるようになったからだ。この登用は人材育成の経験と趣味のカメラ撮影がストレートに一致した、まさに適材適所の配置であったようだ。

「当時はまだ写真教室も仕組みが統一されていなかったもので、まずはそこから着手しました。私自身も極力、教室の現場に立ち合い教室参加者の声をダイレクトに吸収。受講生の方々からも『顔の見える責任者』として評価されました」。もちろん本人も現場に行くことで、様々なコーチングの勉強になったとのことであった。その後、本社勤務になったのだが、その際にここで学んだノウハウも加わり、社員へのカメラ知識の教育はもちろん、取引先である家電量販店やカメラ店スタッフへの講習を全国各地で行ってきた。「次はいつ出社するのか、と同僚に笑われるくらいの日々が続きましたが(笑)、この学びと実践経験を得たことが今のベースになっています」と語っている。

こういった経験を経て本人の頭の中には写真家として独立したいという思いが強くなってきた。2020年12月に定年を迎えた際に、雇用延長を断りきっぱりと退職したが「ちょうど2021年の年明けから新型コロナが蔓延して実質的に活動ができず、自宅内に留まることを余儀なくされました」。この自宅に居る時間を持てたこともかえてプラスになった。「この時期に改めて人生設計やこれからの写真家としての展開方針をじっくりと構想を練ることができました」。その際に、まずしたのは写真家としての活動内容である。田村氏は①作家活動②受託撮影業務③撮影指導業務の3つに分類。このうちもっとも行いたいのは③の撮影指導業務であった。これを第一優先にして自分の得意分野やできることを手当たり次第に写真撮影教室のコンテンツとして纏めていった。纏めたメニューをもとに企画書を具体化する営業活動を徐々に地道に行っていった。これで2021年秋頃から具体的に教室業務として実現していったという。なお①の作家活動についても重視。そもそも好きな事であるし、これをおろそかにはできないということで、同時に

こちらの展開方針も徐々に固めていったという。「この2つはどちらも注力すべき流れだと思います」。

**1年超えて** 写真教室については2022年の1年を超えた段階で指導した生徒数が**600名指導** 500名を超え600名近くに到達。個人の写真教室に加えて数社の担当講師として登録。そのうちの一つであるカメラのキタムラのフォトカルチャー倶楽部では、この半年で写真教室の集客人数が全国1位となり表彰もされている。ブランディングの一環として同氏の名前を取り「タムタク写真部」を立ち上げて、現在は「鎌倉部」、「東京散歩部」、「乗りもの部」の3つの指導を兼務。これらは募集から僅かの期間で満席になるなど、人気講師ぶりを示している。自らのHP (tamutaku.com)へのアクセス数も増え撮影指導の依頼も徐々に増えだしている。

撮影指導業務の成功の要因を改めて聞いてみたところ「そうですね。サラリーマン時代の人材育成担当時代に培った人への折衝ノウハウは大きいですね。自主的にカウンセラーの資格も取得しましたが、この知識も役立っています。もちろん指導の場で、その方に合った説明方法や言葉選びなどにも注意を払っています。根本的に教室といえども人と人との交流の場ですから。その点を一番に注力しています」と。こういった相手の立場にたった人当たりの良さが『タムタク先生』としてのブランディングとなっている。「それをマーケティングしていくのも自分ですよ」。前述した作家活動は以前からテーマにしていた赤外線写真 (FBでは赤外線写真同好会の管理者を務める。会員数は約600名)の写真展を6月にケンコー・トキナーギャラリーで開催。長年通りテーマとして撮影している鎌倉の風景の作品展を7月にポートレートギャラリーで開催するなど精力的に行っている。現在、日本写真家協会 (JPS)と日本旅行写真家協会 (JTPA)に所属。JPSでは企画委員として写真文化の発展のために力を注いでいる。

独立後わずか2年で業務を軌道に乗せ、多忙な日々を送る同氏だが、今後はさらに全国各地での写真教室や教本の出版。加えてカメラ用品の企画なども含めて幅広く活動をしていく意向だ。カメラ用品については直近の動きとして、KANIフィルターから同氏監修の赤外線撮影用フィルターが発表されている。同氏の活動に興味のある業界関係者は是非、それらを見ることができるHP (tamutaku.com)にアクセスしコンタクトしてみたらいかがだろうか。同氏の展開の軌跡やノウハウは、新たな施策を考える人にとって様々な点で参考になりそうだ。

**舞山秀一写真展開催** ピクトリコショップ&ギャラリーは12月3日まで、舞山秀一写真展 [Drift] A Moment 2022 を開催。中欧を旅した際の写真を展示。

**市川ソフトラボラトリー移転** 市川ソフトラボラトリーは幕張オフィスを移転。新住所は東京都千代田区富士見2丁目7番2号ステージビルディング13階。☎03 (3263) 5080 FAX 同 5081。